

一步前進 校長室からのつぶやき

私自身が思っていること、考えていることをつぶやきたいと思います。

答えより導き方に目を向けて

教科の宿題等で怠けている人が「面倒なので答えを教えてくれませんか?」と言つてきたらどうしますか?



● 「で、結局どうすればいいの?」

問題を解いて分からないと、「で、答えは?」「正解を教えてください」とすぐに答えを求めてくる人がいます。

説明を始めて途中でさえぎり、「要するにこういうことですよね?」とまとめたがる。

効率的に見えるけれど、実はその瞬間、思考のドアは閉ざされてしまいます。

本来、勉強とは「考えること」そのものが成果の一部です。誰かに教えてもらった答えをだすなら、AIでもできます。

それでも多くの人が答えを欲しがるのは、「間違うことが怖い」からです。失敗を避け、リスクを減らし、正解をもらって安心したい。その心理が、成長の芽を静かに摘んでいるのです。

● 「答えの導き方」とは?

『世界の果てのカフェ』には、そんな正解主義の心をほぐしてくれる一節があります。

そうだなあ、答えを見つける方法について言えば、ひとつのやり方が誰にでも当てはまるとは思わない。

みんなそれぞれ、自分なりの方法で人生に取り組んでいるからね。——『世界の果てのカフェ』(第10章) より

この言葉は、「正解」よりも「探索(考え方とする力)」を重んじる姿勢を教えてくれています。

勉強も仕事も人生も、誰かが先に用意した答えをなぞるだけでは、深い納得にはたどり着けません。なぜなら、人にはそれぞれ違う背景、価値観、目的があるからです。同じ質問でも、立場や経験が違えば、導き出す答えも異なって当然なのです。

● 「自分なりの答え」を見つける

先生や友達からヒントをもらうのはいいことです。

しかし、最終的に答えを導き出すのは自分で。

「教えてもらった正解(答え)」は、他人事のまま終わります。一方で自分で悩み抜いて出した答えは、たとえ間違っていても次の糧になります。

「どうすればいいですか?」ではなく、「自分ならどうするか?」と問い合わせ直すと思考の幅が一気に広がります。その姿勢が大事なのです。

● 「考える時間」をもつ

「面倒なので答えを教えてください」と言われたら、こう返したい。

「答えをもらうより、自分で考えたほうが、ずっと面白いよ」と。

正解を求める生き方は、安心をくれるけれど、成長を奪います。

一方で、自分の方法で悩み抜いた人だけが、理解が深まり、納得いきます。「答え」より「探し方(考え方)」こそが本質です。